

本研究科においては、「各分野において学術研究を遂行していくことを可能にする高度な知的基盤を有し、自立的に学問世界を究めていく意欲と粘り強さを備えた方」、「領域を横断しながら新しい知の世界を切り開く冒険心と課題設定力を持ち、大学院での学修を支える幅広い知識と十分な学力を有している方」、「社会の実践的課題の解決に向けて自らの問題関心や経験を学問的に深めていく目的意識を持ち、大学院で専門教育を受けるのに必要な知識と十分な学力を有している方」といった人材を、国内外を問わず広く求めて、入学者選抜を実施しています。

入学後は、学生が自らの履修計画に基づいて適切な科目履修が行えるように、ゼミナール及び講義科目それぞれにおける授業概要や到達目標、授業計画及び評価方法等を明記したシラバスを示しています。

本研究科での学修を通じ、ディプロマ・ポリシーに掲げる (1) 社会科学分野の専門的・総合的知識、(2) 人文科学分野の専門的・総合的知識、(3) (1) (2) を身につけ、深い専門性と領域横断的な総合性をあわせ持つことで、現代社会の諸課題に対する解決策を提案・実行できる能力、及び、学術的貢献ができる研究能力を修得させます。修士・博士後期課程を通じて学生が身につけるべき能力は、具体的には総合性・専門性・人間性・国際性の四点となります。

以上にに基づき取り組んだ結果、2023 年度の学位授与の状況は以下のようになりました。

修士課程においては、標準修業年限内の修了率はおよそ 80%です。分野単位でのリサーチ・ワークショップを年間 4 回開催し、充実した集団指導を行っている結果と考えられます。また、2023 年 4 月に行った本研究科の 4 研究分野への組織再編に伴う科目再編と複数教員による学生指導の体制が軌道に乗り、修士課程の必修科目である「社会科学研究の基礎」、「地球社会研究の基礎」をベースとして、修士論文研究に向けたカリキュラムを、博士後期課程進学希望者、就職希望者それぞれに適合的なかたちで整える仕組みが機能していくことが期待されます。

博士後期課程においては、標準修業年限内の修了率はおよそ 5%です。博士学位論文の効率的な執筆を支援するために、2022 年度博士後期課程入学者より適用された学位論文計画書の博士後期課程 1 年次 1 月提出の標準化、「リサーチ・コロキウム」(博士後期課程 2 年次の 2 月に行う研究分野単位での中間報告会)の必修化にあわせた研究指導を各教員が進めており、今後は向上していくことが見込まれます。